

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	美山町立鶴ヶ岡小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	5	9
児童数	9	2	9	15	6	12	0	53	

研究の概要

1. 研究主題

個が輝く学習活動の創造をめざして  
～一人一人が主体的に学び、確かな力を身につける算数科の学習～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全校・算数  
児童の理解の状況に差が出やすい教科  
児童が主体的に課題を持ち課題解決を図る力を育成できる。  
児童同士が考え合い練り合う過程で伝え合う力を伸長する。

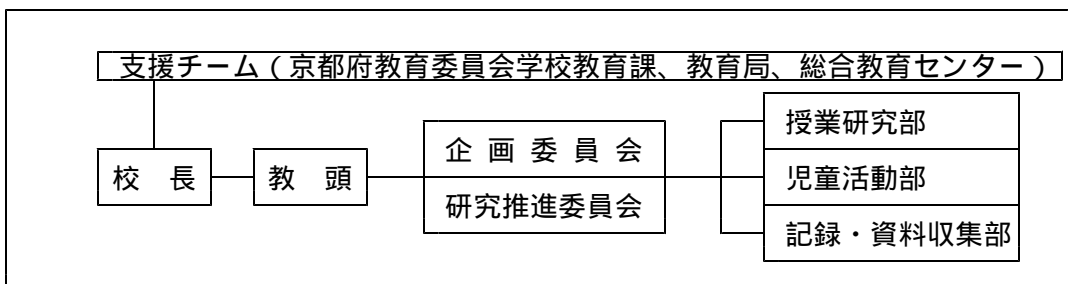
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個が輝く学習活動の創造をめざして ～一人一人が主体的に学び、確かな力を身につける算数科の学習～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとって興味深い学習課題やその提示方法を工夫して、学習意欲を高めたり算数的活動を取り入れたりして、数処理能力を高める。</li> <li>・問題解決的な学習展開の中で、児童が追究する活動を設けることにより、筋道を立てて考えたり、学ぶ楽しさを味わわせたりする。</li> <li>・一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じた評価の充実を図る。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 小規模学級における習熟の程度に応じた指導等のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型の授業の実践</li> <li>・習熟の程度に応じたコース別学習の推進</li> <li>・TV会議システムを活用した他校との合同学習の推進</li> </ul> <p>(2) 教材教具の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の程度に応じたコース別学習のための教材作り</li> <li>・授業を活性化させる教材・教具作り</li> </ul> <p>(3) 評価規準や評価方法等についての研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価能力の育成</li> <li>・評価規準を明確にした単元指導計画の作成</li> <li>・より客観的な評価をめざして - 評価検討委員会</li> </ul> <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校での算数的活動や生活化を図る「わくわくタイム」の実施</li> <li>・基礎・基本の徹底や課題別学習を進める「算数教室」の実施</li> <li>・児童の実態把握・指導の効果をみる算数アンケートの実施</li> <li>・保護者地域との連携・情報発信</li> <li>・指導・支援チームや講師の招聘</li> </ul>
--------	--

平成16	<p>テーマ 個が輝く学習活動の創造をめざして ～一人一人が主体的に学び、確かな力を身につける算数科の学習～</p>
------	--

年度	<p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な学習課題の設定と算数的活動の工夫により、学習意欲と数処理能力の一層の向上を図る。</li> <li>・問題解決的な学習の中で、様々な形で課題を追究する場を設け、学ぶ楽しさを味わわせるとともに算数的思考力の伸長を図る。</li> <li>・個に応じた評価の充実により個性の伸長を図る。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小規模学級における習熟の程度に応じた指導等のあり方</li> <li>(2) 教材教具の開発</li> <li>(3) 評価規準や評価方法等についての研究</li> <li>(4) その他</li> </ol>
----	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 児童の変容

- ・児童の学習に対する意欲・関心が高まっている。
- 算数意識アンケート(12月実施)では、「算数が好き」多数、「きらい」0人。コース別学習は、「よくわかる」「たのしい」が多数を占めている。
- ・課題を持つ児童の変容が大きい。
- 業者テストの「表現処理」・「知識理解」領域で大きな伸びを示している。
- ・授業中発言をほとんどしなかった児童が、積極的に発言するようになった。
- ・自分で課題を見つけて解決していこうとする姿勢が見られる。
- ・学び方がわかり、分かったことを表現することにより力をのばし、さらに新しい課題に取り組むという流れが定着しつつある。
- ・自ら課題を持って学習するスタイルができ、「自主学習ノート」(家庭学習)や他教科への広がりがみられる。

(2) 教師の変容

- ・画一・一律的な考え方から個性を大切にする考えへと教師の認識が大きく転換した。
- ・「つけ法」・「復唱法」などの取組や、これまでの研究実践を通して、児童の学習態度や学力が大きく変化してきた。授業が変われば、児童が変わる」ことを実感するとともに、一層授業力を高める必要があることを再確認した。
- ・ノート指導等全校での取組を推進することやTT指導・テレビ会議システムを活用した授業の研究を通して、教師同士のチームワークが生まれた。

4. コースに分かれてする勉強は楽しいですか。

学年	楽しい	楽しくない	今までと変わらない
3年	8	2	0
4年	14	0	0
6年	12	0	0

3. 算数の時間に自分の考えを表現したり友だちの考えを聞いたりする学習をどう思いますか。

学年	楽しい	楽しくない	無回答
1年	6	2	2
2年	2	0	0
3年	8	0	0
4年	15	0	0
5年	5	0	0
6年	12	0	0

2. 今後の課題

- ・「つけ法」・「復唱法」・ノート指導と合わせた問題解決型の授業改善を一層推進する。
- ・コース別・課題別学習など、習熟の程度に応じた指導を積極的に進めるとともに、より効果的な教材を作成する。

- ・自主学習に取り組ませ、主体的な学びができるようにしていく。また、そのために各学年で身に付けさせなければならない力を明確にした指導をおこなう。
- ・学力向上と小規模校の課題を克服するため、中学校も含めた町内校と一層連携を深める。
- ・家庭・保護者との連携を強め、児童の生活の見直しを図るとともに、地域・家庭・学校が一丸となって主体的に学ぶ児童を育成していく。
- ・教師が自己及び相互で授業力の評価を行い、評価項目をしぼった研究を通して、授業力の一層の向上を図る。

#### 学力等把握のための学校としての取組

\* 児童の学習状況の変容を捉えるために、定期的に行っている各種調査などについて、調査の目的、実施内容、時期等を記すこと。

目 的	実 施 内 容	時 期
学力診断	基礎学力診断テスト(4・6年) O R T (2・3・5年) C D T (全学年)	4月 4月 2月
算数に関する意識調査	算数アンケート(自作)	5月 12月
算数教室に関する調査	算数教室アンケート(自作)	7月 12月

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

##### (1) 公開授業及び実践発表

美山町教育研究推進委員会公開授業研究会

・平成15年7月10日(木)午後1時45分～午後4時30分

・美山町立鶴ヶ岡小学校

・美山町内小中学校教員

・テレビ会議システムを活用した授業公開と研究協議

北桑田地区学力向上推進協議会

・平成16年1月20日(火)午後1時30分～午後4時30分

・美山町立鶴ヶ岡小学校

・北桑田管内小中学校教員

・公開授業と実践発表

##### (2) 情報発信

ホームページ更新(毎月)

・授業案・授業記録掲載

・研究計画、わくわくタイム・算数教室等紹介

保護者・地域への発信

・学校便り、生き生き便り(算数科の授業紹介)

・学校公開日(算数科の授業公開、年間6回)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校     4年度からの継続校
- 【学校規模】     6学級以下     7～12学級  
 13～18学級     9～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】     少人数指導     T・Tによる指導  
 一部教科担任制     その他
- 【研究教科】     国語     社会     算数     理科  
 生活     音楽     図画工作     家庭  
 体育     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有     無